

進路だより

箕輪進修高校 進路指導室

2011.10.27

No. 57



正解のない問題を自分で考える力を育てよ！

皆さんのこれまでの学校生活において、テストの問題は常に正解があるものでした。しかし世の中に出れば、何が正解かは誰にもわからないことの方が多いものです。例えば「これからの日本の経済をどう舵取りしたらよいのか」「東日本大震災後の被災地の復興をどうしていくことがもっとも良いのか」・・・等々。そのとき、色々な人の色々な意見はありますが、どの意見が正解なのかは誰にもわかりません。しかし現実の世界では「分からない」では済まないのです。何とか良い方向に持って行くためにはどうしたらよいのか、多くの人の知恵をしばり現実を打開していくより方法がありません。

いつも他の人が考えたことを実行しているだけではだめです。他の人に聞いているだけでも済みません。若いときはそれでも良いでしょうが、年齢を重ねるに従い、組織の中で周りをリードしていく立場に立ったとき、あなた自身が考えなくていけないのです。会社ばかりでなく家庭内でも、父親や母親になったとき同じことでしょう。そのとき考えることを放棄することは出来ません。そのためにも、正解のない問題を自ら知恵を絞り考え出す訓練を日頃からしていかななくてはならないでしょう。

学校推薦の意味



先日ある学校から指定校推薦入試で本校から送った生徒が「評定基準はクリアしてもコミュニケーション能力がなく指定校推薦にそぐわないのでは」といったクレームが来ました。

最近の進学者には色々な方法で進学が可能になっています。その中でも指定校推薦で入った生徒には、入学後その学校においてリーダー的存在となって欲しいという期待が込められています。そうした生徒に値する生徒を高校から推薦して欲しいということなのです。受験する高校生の皆さんからすれば、入試において学科試験がなく指定校推薦に乗っかればほぼ確実に合格できるという思いで受験するのですが、本来は学科試験で入学する生徒よりは将来入学後リーダー的存在になり得ることが高校から保証されて推薦されたものとして期待されているのです。

本校の校内でいかに評定が良くても、学科試験で入った生徒に比べてその期待が発揮されないとするならば、進学先では高校側に一言苦言を呈したくなるのも当然でしょう。指定校推薦で入学をする人は特にこうしたことをもう一度かみしめて、入学後にも十分力を発揮出来るようになって欲しいものです。中には入学後ついて行かずに、留年したりドロップアウトするようなことでは高校としてもその信義が問われてしまいます。合格できたと浮かれる前に、入学後学科試験で入った生徒に負けないだけの力が発揮できるよう基礎学力はつけて卒業して欲しいものです。

まして特待生推薦者はそれが強く求められています。授業料が一部免除されるからと皆さんの論理で誰でもが応募されても困るでしょう。

【求人情報】 (株)信州光電 箕輪町 プリント基板の設計、実装